

Photo Gallery

等級、形状、音を確認 秋スイカの目ざろえ会



▲スイカの出来栄を確認する関係者

9月25日、函南町の特産品「秋の函南西瓜」（抑制スイカ）の出荷が始まり、JA三島函南函南支店出荷場で目ざろえ会が行われました。

目ざろえ会は、スイカの等級、形状、たたいた音などで等級基準の確認を行います。

今季は8月中旬に曇り空が続き、日照不足や低温の影響で交配作業が遅れましたが、その後は天候に恵まれ、例年と遜色ない出来栄えに仕上がったとのこと。

秋のスイカは夏のスイカに比べると若干小ぶりで、滑らかな食感と甘みが特徴で、贈答品として京浜市場にも出荷されています。

開業5か月で 道の駅 50万人を達成



▲来場者 50万人を祝いました

9月30日、道の駅「伊豆ゲートウェイ函南」の来場者が50万人を達成し、記念セレモニーが行われました。

記念すべき50万人の達成者は坂田宏さんら家族6人（東京都武蔵野市在住）で、関係者とくす玉を割り、函南ブランドの詰め合わせを記念品として手渡し、来場者50万人を祝いました。

伊豆旅行の休憩で立ち寄った坂田さんは、「突然のことで驚いた。次男の誕生日だったのでいい記念になった。とてもお洒落な施設で居心地がいい。」と笑顔で感想を話してくれました。

さまざまな催しでPR 函南町消防・防災フェア



▲保育園児によるちびっこ消防隊訓練披露

10月1日、函南町役場敷地内で「第20回函南町消防・防災フェア」が行われました。

同フェアには、函南町消防団、田方北消防署などが参加し、消防団による模擬店、田方北消防署によるレスキュー体験、煙体験、防災機器、自衛隊・国土交通省・警察車両の展示などを行いました。

この他に、静岡県警察音楽隊の吹奏楽演奏、自衛隊ラッパ、チアリーディング、さくら保育園ちびっこ消防隊訓練披露、第20回を記念した消防・防災クイズなどが行われ、来場者は消防・防災を身近に感じながら楽しんでいました。

函南町文化協会

団体・活動紹介

朗読の会「楽声」

尾内俊枝

朗読の会「楽声（らくしやう）」です。名付け親は、会の発足者（故）服部幸子さんです。名称を考えているとき、「楽に声を出す」というフレーズが彼女の脳裏をよぎったそうです。「これだ」とひらめいた服部さんは、この会を「楽声」と名付けられました。「楽」には、「奏でる・楽しむ・愛する・伸び伸びする」などの意味があります。「伸び伸びと楽しく声を出す」と、どういう効果があるのでしょうか。

独り言以外、人が声を発するときは、いつも聞き手の存在があります。緊張して声が上ずったり、怒りや不満のこもった声を発したら、雰囲気や緊張を壊すだけでなく、伝えたいことが正確に伝わらず誤解を招くこともあります。緊張を

ほぐし、伸び伸びと愛のある声で話せば、普通の会話も朗読会でも、聞き手は目を輝かせて聞いてくれるはずで

す。稽古場は、函南駅から20分の山の中ですが、私たちは、青々と茂る木々と小鳥や虫の声に癒され、日々の生活で生じるストレスから解放され、落ち着いた気分です。楽に声を出して稽古に励んでいます。私たちは、メンバーが単独で朗読する形はとらず、担当のパートを決めて全員で1つの物語を読みます。各自の作品に対する熱が他のメンバーへの刺激となり、より豊かな表現力を生み出してくれ

ます。皆さん、ダイヤランドで朗読をしてみませんか。

問合先／尾内俊枝（974-1094）

文芸散歩

歌々とまきに岳神鬼蜻蜒

石田 福子

秋晴れや八方山観て何もせず

犬飼 良助

秋風やきつと空耳夫のこゑ

小永井なみ枝

師の評に耐へる句いまだ墓洗ふ

齋藤 和久

杵元に雲あそばせて富士は秋

鈴木 孝

葬礼の別れの言葉花野かな

春口 枯蓮

あめつちの恵みつめたる石榴かな

山田幸次郎

〈樹の会〉